# 令和８年度　第４回飛騨市公共施設在り方検討部会　議事要旨

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 令和 8 年 9 月 29 日（火）15 時 58 分～18 時 03 分 |
| 場　　所 | 飛騨市役所　西庁舎 3 階　中会議室 |
| 出席委員 | 有識者（１名）、各町の区長会長（２名）、専門委員（市内各種団体推薦者７名）<br>計　１０名 |
| 関係部署 | 財政課　土田治昭課長<br>総合政策課　下通剛課長<br>まちづくり観光課　今村彰伸係長<br>スポーツ振興課　中垣浩太郎課長<br>河合振興事務所　地域振興課　岩佐貴博課長補佐 |
| 事 務 局 | 建築管財部　田中義也部長<br>管財課　西田博和次長兼課長、澤田充弘課長補佐兼係長、渡邉康智主幹 |
| 主な議事 | ・優先順位の考え方について（人工芝グラウンド）<br>・人工芝グラウンドの位置付けについて<br>・優先順位の考え方について（スキー場）<br>・スキー場の位置付けについて<br>・自由討議<br>・人工芝グラウンド・スキー場の方向性について |

# 議　事　要　旨

**【事務局説明事項】**

①飛騨市コンベンション事業における人工芝グラウンド利用状況について　資料 No１

②飛騨市における宿泊施設数の推移について　資料 No２

③２０施設の市民利用割合（再掲）　資料 No３

④令和７年度検討２０施設の運営状況について（再掲）　資料 No４

**優先順位の考え方について（人工芝グラウンド）**

【委員意見】

⑴　杉崎公園グラウンド

・他のグラウンドと比べて利用頻度及び市民利用比率が高く、また、立地の良さや夜間照明設備を有することでの優位性が挙げられた。

⑵　ふれあい広場

・人工芝だけでなく、天然芝グラウンドも一体となって施設としての価値があり、利用につながっているとの認識が示された。

・大会開催を通じての宿泊や弁当など、地域経済への影響が大きいとの認識で一致した。

⑶　流葉交流広場

・市民利用率は低く市民生活への影響は少ないが、地元宿泊施設の利用は夏場の方がスキーシーズンを上回っており、地域経済への影響は大きいとの認識が示された。

⑷　古川ラグビー場

・地区内に人工芝と天然芝の両方を有する優位性が認められる一方で、市民利用が皆無で市民生活への影響はなく、長年開催された大規模なラグビー大会が、宿泊受入上の課題から他市での開催となることから、地域経済への影響も薄れるのではとの考えが示された。

**人工芝グラウンドの位置付けについて**

【結論】

⑴　事務局が作成した定量指標（縦軸）の評価をベースとしながら、委員が定性指標（横軸）に関して施設ごとに議論を進めた結果、施設の位置付けについて別紙（優先順位配置図）のとおり整理した。

**優先順位の考え方について（スキー場）**

【委員意見】

⑴　飛騨かわいスキー場

・地元利用の比率が非常に高い施設であることは間違いないが、一部小学校のスキー教室廃止など、以前と比べ市民生活への影響が薄まっている印象を挙げられた。

・農業者の冬季就業など、雇用の場としての影響は見過ごせないのではとの考えが示された。

⑵ ひだ流葉スキー場

・地元宿泊業への影響だけでなく、温泉施設やキャンプ場コテージとの一体的利用によるメリットなど、地域経済への影響は大きいとの共通認識が示された。

・国道 41 号に面していることでのアクセス性の良さはプラス要因となるのではとの考えが示された。

**スキー場の位置付けについて**

【結論】

⑴ 事務局が作成した定量指標（縦軸）の評価をベースとしながら、委員が定性指標（横軸）に関して施設ごとに議論を進めた結果、施設の位置付けについて別紙（優先順位配置図）のとおり整理した。

**自由討議**

【委員意見】

⑴ 人口減少が進む中、施設保有量の縮小は必須であり、民間譲渡も含めて削減していくべきであることは当然との意見が多く出された。

⑵ 小さな市でありながら、2 つのスキー場を維持し続けるのは厳しいとの意見が多く出された。

⑶ 施設廃止を決定した場合に噴出する不平不満に対するフォローを、色々な人を巻き込んで解消していくことが重要ではないかとの意見が出された。

**人工芝グラウンド・スキー場の方向性について**

【結論】

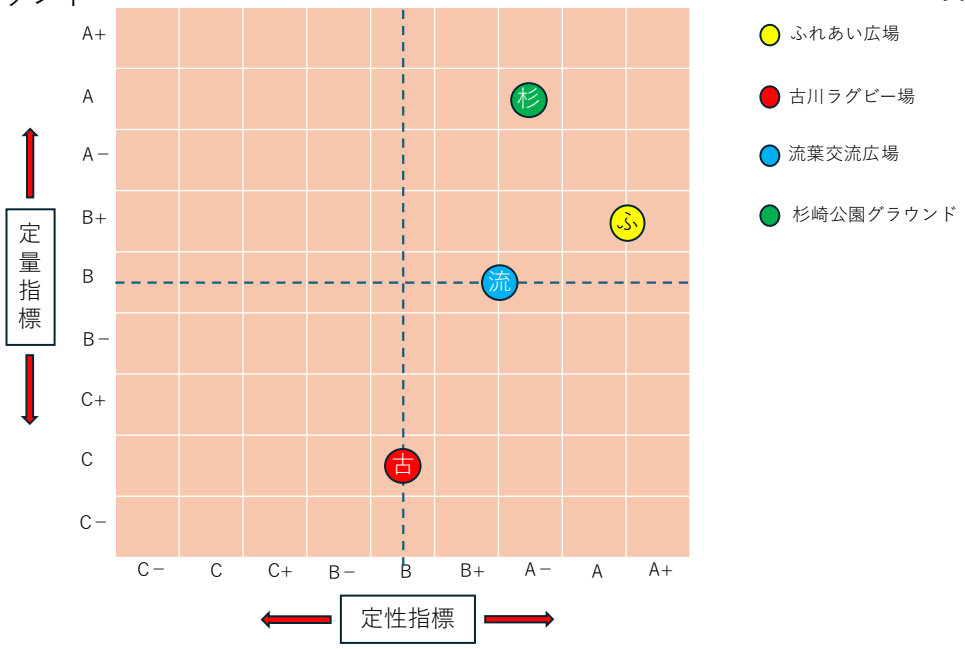
今回の部会で全 20 施設の位置付けが確定されたことから、次回部会にて一括して、部会としての具体的な方向性、着地点を審議決定することを全会一致で確認した。

■優先順位配置図（検討部会審議決定）

人工芝グラウンド

優先順位配置図

資料No 6






スキー場

優先順位配置図

資料No 8

